

地下水100%のおいしい水

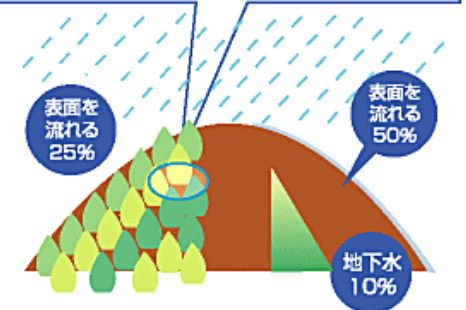
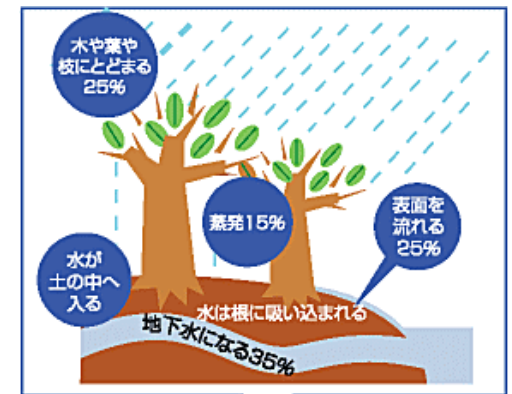
開成町の水道は地下水のみ水源としたおいしい水です。

水道水源は地下80mほどの深い層を流れる深層地下水をくみ上げています。

深層地下水は、山に降った雨や雪が約30年という長い年月をかけてしみ込んだものです。

地下にしみ込む過程において、土壌がフィルターの役割を果たし、不純物を取り除くとともに炭酸やミネラル成分等を溶かしながらしみ込みます。こうして流れてきた深層地下水を利用する開成の水はミネラルウォーターと変わらないおいしさです。

また、前述したように土壌が浄化の役割を果たすことにより、水質が大変良好となっているため、浄化処理をしていません。薬品は水道法で義務付けられている必要最低限の塩素を加えているのみです。



おいしい水の条件

わが国は、水に恵まれているといわれ、諸外国にくらべると水の味もおいしいとされています。

しかし、水道水源の水質汚濁が進み、一部の水がまずくなってきたとの声が聞かれます。

他方では生活が豊かになりミネラルウォーターや浄水器等が普及し、おいしい水への要望が高くなってきています。

旧厚生省は昭和60年に「おいしい水」の要件を発表しました。

その要件は次のとおりです。

おいしい水の要件

水質項目	おいしい水の要件	摘要
蒸発残留物	30～200mg/ℓ	カルシウムやマグネシウム、ナトリウムやカリウム、鉄やマンガンなどの鉱物質、いわゆるミネラル分が大部分を占めます。程よく含まれると水の味がまろやかになります。
硬度	10～100mg/ℓ	カルシウムやマグネシウム分のことでミネラルの主要成分ですが、これが不足すると水の味のまろやかさが失われます。
遊離炭酸	3～30mg/ℓ	水に溶けた炭酸ガスのことでこれが水にたくさん含まれると、サイダーなどの炭酸飲料と同じように水に清涼感を与えます。
過マンガン酸カリウム消費量	3mg/ℓ以下	水中の有機物濃度の指標になる数値です。これが多いと水にかび臭などの異臭味を与えます。
臭気度	3以下	測定しようとする水を無臭の水で希釈し、無臭になった時の希釈倍数を言います。特に「かび臭」や「どぶ臭」が問題になります。
残留塩素	0.4mg/ℓ以下	水中に残っている消毒用に使用された塩素の量です。水道水は必ず塩素で消毒します。
水温	最高20度以下	水温は特に水のおいしさを左右する要因となります。冷たい水のおいしさは格別です。10度～15度の水は、人にもっとも清涼感のあるおいしさを感じさせるといわれています。

資料「おいしい水研究会(厚生労働省水道環境部長私的研究会昭和60年4月)

おいしい水の要件

水のおいしさはさまざまな要件によっても左右されます。

例えば、飲む人の置かれた環境条件によって感じ方が変わってきます。次のような環境の時はおいしいと感じられるでしょう。

おいしい水の環境条件

- 水温が体温に比較して20～25度低いときがもっともおいしく感じる。
- 気温の高いとき、カラッとしていて湿度の低いときにおいしく感じる。
- 健康状態の良いとき、運動した後おいしく感じる。
- 水を飲む容器、周囲の雰囲気などによってもおいしさが左右される。
- においの感覚は朝が一番敏感で、においがあるととりわけまずく感じる。

開成町の水道水は

水質項目	開成町の水	おいしい水の要件
蒸発残留物	120mg/ℓ	30～200mg/ℓ
硬度	57mg/ℓ	10～100mg/ℓ
遊離炭酸	3.7mg/ℓ	3～30mg/ℓ
過マンガン酸カリウム消費量	0.9mg/ℓ	3mg/ℓ以下
臭気度	なし	3以下
残留塩素	0.2～0.3mg/ℓ	0.4mg/ℓ以下
水温	平均17度	最高20度以下